

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宇城市松橋町松橋1621-1		
自己評価作成日	令和2年3月1日	評価結果市町村受理日	令和2年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	令和2年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は同敷地内に隣接するグループホーム・ドリームまつばせの姉妹施設として開設し5年が経過しました。自然豊かで季節を感じられ、又明るく清潔な環境の中で入所者様は笑顔で穏やかに生活されており、職員も入所者様及びご家族様の安心・満足を得るべく日々の個別サービス提供や種々の年間行事(年2回の日帰り旅行、お花見、夏祭り、敬老会、クリスマス会等)の提供に連携して取り組んでおりご家族様からも大変喜ばれています。又、職員は自己のスキルアップを目指し研修や勉強会に参加することでQOLの向上に努めています。職員と入所者様が外出や家事作業・レクリエーション等を共に楽しむ活気と笑顔ある施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの真向かいに系列の保育園があり、子どもたちの元気な声が聞こえてくる。月1回のボランティアによるリハビリ体操の際には、利用者と子どもたちに笑顔が絶えず、双方にとって楽しい時間となっている。開設時から日帰り旅行を続けており、今年度も2回行われている。観光はもちろんのこと、外出先での外食や道の駅での買い物など気分転換を図っている。毎日の献立は利用者と一緒に考え、一緒に買い出しに出かけている。変化にとんだ献立・彩り・盛り付けなど気を配り、おいしい料理を提供している。お節料理も職員の手作りで、職員は利用者の笑顔を思い浮かべながら楽しんで作っていることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し常に見える化を図っている。又、定期的にミーティング等で掲げ、職員への理解、共有を徹底し、実践へつなげている。	管理者は、新人研修で理念について具体的に説明している。また年に3～4回、ミーティングで理念の5項目の中の一つを取り上げて、全職員が理念の意味と実践について自分の言葉で発表し、理解を深め実践に努めている。利用者は職員に見守られながら、家事作業など自分にできることに励んでいた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地元企業クラブへ所属し企業間交流への参加、地元小学校への雑巾寄与、職員と入所者様は清掃活動等への参加にて地域との交流に取り組んでいる。	利用者が作った雑巾を、近くの小学校に毎年届けている。また、地域のゴミ拾いの清掃活動に利用者と職員が参加して、地域住民と交流している。どんどや・フラワーフェスタなど、地域に出かけ楽しむ交流も見られた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当事業所の取り組み、認知症の方への支援方法、考え方を発表することで地域の方へ発信、展開している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での活動実績報告、身体拘束について、毎回一つテーマを決め認知症の理解等の意見交換実施。近隣地区や市との情報交換を行い施設内でのサービスへ展開するようにしている。	運営推進会議は、区長・老人会長・民生委員・家族・包括支援センター職員が参加して開催。毎回、隣接のグループホームの管理者とともに、有意義な会議になるよう「終末ケアについて」「感染症について」などテーマを決めて意見交換を行っている。初めて参加したメンバーからも、大変勉強になったという感想が寄せられている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新書類等の提出は担当が行政へ出向き、又来訪時も直接対応することで信頼関係を築いている。運営推進会議での意見交換等でも協力関係を築いている。	管理者は、提出書類を直接市の担当課の窓口に出向いて提出し、積極的に情報交換を行っている。市職員と顔なじみであり、意見や相談が述べやすい関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、全職員へその内容を理解させたうえで見守り重視のケアにて安全に配慮しながら玄関の開錠等身体拘束しない支援に努めている。	身体拘束について、内部研修や外部研修に参加している。市役所から身体拘束についてマニュアルが送付された際は、そのマニュアルを基に即時勉強会を開催するなど、身体拘束をしないケアに取り組む姿勢が浸透している。帰宅願望のある利用者の表情の変化の把握や、夕方には気分転換や見守りを重視して、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修会への参加、勉強会にて理解を深め徹底し連携することで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修にて制度への理解を深め、必要な場面で助言、活用が出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は「重要事項説明書」に基づき資料読み合わせ実施、説明内容について疑問点など質問も受け付け十分納得して頂いたうえでの承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へご意見箱設置、常に利用者様やご家族の意見を反映出来る体制を整えている。来訪時には入所者様の日頃の様子をお伝えし信頼関係を築くようにしている。	夏祭りやクリスマス会、家族の面会時など意見・要望を聞き取る機会としている。利用者・家族の率直な意見を聞いて、運営やケアに反映するための努力をしている。面会時に利用者の生活ぶりを伝えている他、毎月「まごころだより」を送付し、家族の安心につなげている。	利用者・家族の意見・要望を汲み取る取組について、職員で意見を出し合うとさらに良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでは上司からの連絡事項他、職員に意見や要望を掲げてもらい話し合える場を設けており、運営改善に反映出来るよう努めている。	毎月1回、全職員が参加するミーティングを開催している。管理者は全職員に発言を求め、参加できない職員からは事前に意見要望を聞き取るなど、多様な意見を汲み取る努力をしている。チームワークが良好で働きやすい職場であると職員は感じており、笑顔を大切に働いていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者や職員の勤務状況把握・評価に努め、資格取得手当てや昇給、職場環境の整備等職員がモチベーションを上げ働き易いような環境を提供出来るよう推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は管理者や職員のスキルや学習意欲の把握に努め、種々研修機会の提供、実践における能力向上を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者や職員の同業者との交流と情報交換を目的に地区のブロック勉強会やミニバレー大会等への参加を推進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は以前ご利用されていた病院や他のサービス事業所より情報提供して頂き、又ご本人との面談にて不安や要望等傾聴することで気持ちを汲み取り、安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はご家族様の不安や要望等傾聴し、当施設でのサービス内容、今後ご家族様へ協力して頂く内容等納得し安心して頂ける説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様及びご家族様との面接にてアセスメント情報収集、分析したうえで他のサービス(インフォーマル)も含めたケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの得意分野や生活パターンを理解したうえで一緒に調理、片付け、洗濯物たたみ等の家事作業を行ったりフォローすることで信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族来訪時は絆を深められるような落ち 着いた環境を提供し、又日頃の様子や体調 等をお伝えし、双方から入所者様を支えて いけるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方には今まで通っておられた地 域交流の場への参加や病院受診を支援し、 馴染みの方からの面会も受け入れ関係が 続くよう配慮している。	かねてから参加している月1回の地域サロ ンに、職員の送迎を利用して参加し、仲間とお 茶やおしゃべりを楽しんでいる。行きつけの スーパーの店員さんと顔なじみになり、挨拶 を交わす利用者もいる。友人・知人の面会も あり、お茶を飲みながらゆっくり過ごす環境を 整えるなどして、なじみの関係継続の支援に 努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう 支援に努めている	入居者様が孤立されたり、入居者様間のト ラブルで不快な思いをされないよう常に見守 りし、時には入居者様同士と一緒に楽しめ るレクリエーションを提供し関わり合えるよう 努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様退所によりサービスが終了したご家 族へもアルバム提供、葬儀参列、今後の相 談受付け等良好な関係性が継続できるよう 努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中での意向を確認するよう な声掛けに努めている。発語が出にくい方、 あまり自己主張されない方にもしっかりご本 人の意思を確認するよう努めている。	日常会話や入浴時の会話などから、利用者 の思いや意向を把握するよう努めている。言 葉での表現が困難な利用者には、表情やし ぐさなどの小さな変化を見逃さず、ケアの際 は必ず意向の確認をするように努めている。 利用者の思いに添う支援に努め、安心につ なげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族からの情報、以前利用されていた介 護サービスや病院のサマリー等を職員全員 確認している。又、ご本人様との日々の会 話の中から過去の生活についてお聞きする こともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態変化を観察し記録に残すことで職員全体で情報共有するようにしている。又必要な時にカンファレンスし現状に合った支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやミーティング時だけでなく必要と思われる場合は職員、ホーム長、ご家族を交えて話し合い、ご本人の現状に即したケアプランを半年に一度見直し作成している。	日常の観察や記録などから詳細に情報を収集し、全員で毎月モニタリングを実施。全職員でカンファレンスを行い、6か月ごとにプランを見直しており、かかりつけ医の意見も反映している。楽しい活動・個別ケア・健康に視点を置いたプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりその日の体調や日常生活の様子等日々の記録として残し、気づいた点はその都度職員間で情報共有し、支援内容の変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診、買い物の支援、ご家族との急な外出要望等個別対応にて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の茶話会や映画鑑賞への参加を支援したり、近隣の方をお招きし演奏鑑賞会を実施するなど地域との関わりを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医による往診を受けて頂き健康状態をチェック他、体調不良や急病時その都度往診依頼にて対応して頂いている。状態の変化は往診時に主治医の先生に相談出来ている。	利用者・家族の了解を得て、全員が協力医をかかりつけ医としている。2週間に1回の往診で対応しており、休日や夜間もかかりつけ医の往診を受けている。また訪問看護の健康管理もあり、安心に繋がっている。専門医の受診は家族の同行が基本であるが、要望がある際は職員の同行が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けて頂き日常の体調管理を行っている。体調の変化等気になる点はその都度看護士へ相談し適切な対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活の留意点を情報提供。入院中は職員が度々面会に行き関わりを持っている。退院時は入院中の情報提供して頂き早期の復帰に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の入居者様はご本人及びご家族様の希望に添えるよう十分話し合い、訪問看護や主治医と連携を図りながら又、職員内でも連携し最後まで看取れるよう努めている。(同意書あり)	看取りを行う方針である。入居時に家族・利用者に「看取りケアにおける指針」を説明し、同意を得ている。外部や内部の看取りの研修に参加し、運営推進会議でも看取りをテーマに取り上げて、利用者・家族が穏やかに満足を得られる看取りケアを目指している。1名の看取りの実績がある。振り返りの際に、職員の精神的負担の軽減が課題であると管理者は感じていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応や連絡については訓練を実施している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回隣接ホームと合同の避難訓練を実施し、災害時にスムーズに避難誘導出来るよう消防署より指導を受けている。又、設備(警報機やスプリンクラー等)の定期点検、消火器の使用訓練も実施している。	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、避難方法・避難経路を確認している。内1回は消防署立ち合いの訓練を実施しており、訓練後に地震の際の避難などについてアドバイスを受けている。地域の合同の防災訓練にも参加し、炊き出し訓練など体験している。	夜間想定訓練では夜勤者1名で対応しており、地域との協力体制の構築が重要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様を人生の先輩として尊重し言葉使いや距離に考慮しながら接している。入浴時やトイレ誘導時は羞恥心に配慮し対応している。	コミュニケーションに関する研修を実施して、人権を尊重することを重視している。言葉使いに注意し、馴れ馴れしい言葉にならないように、また方言でも温かみのある言葉使いを心掛けている。失禁時は不安感や羞恥心に配慮してさりげなく対応し、また入浴時は浴室と脱衣室の仕切りのカーテンを閉めてプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方へは聞き取り易い方の耳元で声掛けしたり、ご自分の想いをなかなか言葉に出来ない方には表情等にて思いを汲み取ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて居室やD ルームで穏やかに自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時等ご本人と一緒に好みの服を選び、整髪・整容時は本人様の表情や言葉に注視し喜んで頂けるよう配慮している。又、施設内にて訪問散髪も実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物同行にて食材を選んで頂いたり時には調理と一緒にしている。又会話をしながら食事を楽しみ片付けも手伝って頂いている。	冷蔵庫の食材を基に利用者の意見も聞いて変化のある献立を心掛けている。全職員が当番制で調理しており、利用者も一緒に買い物に出かけている。日帰り旅行時には外食を、花見の時は弁当のカatalogを見て注文する、夏のそうめん流し、お節料理の行事食など、多様な食の楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食や刻み食、強めのとろみや弱めのとろみ等入居者様一人ひとりに合わせて工夫し食事や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。困難な方は一人ひとり職員が支援している。必要に応じて訪問歯科診療をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方へはトイレの声掛けを行ったり、介助が必要な方は日中時間を決めて誘導している。	昼間はトイレでの排泄を基本とし、声掛け誘導や見守り、二人介助などで対応している。排泄用品について、時間帯や季節により検討し、一人ひとりに適切な排泄用品を選び、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量を把握しながら提供している。適度な運動を行ったり、排泄記録をもとに緩下剤の服用を行いコントロールしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分のペースでゆっくりと入浴して頂けるよう心掛けている。職員と会話しながら楽しむ雰囲気作りを心掛けている。時間希望される方へはその都度対応している。	入浴は週3回が基本である。ヒノキの浴槽と家庭浴槽があり、希望する入浴が出来る。ヒノキの香りの中で職員とおしゃべりしたり、歌を歌うなど、入浴を楽しみくつろいだ時間となっていることが伺えた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファーや居室で自由に休んで頂き、夜間帯もエアコンにて適温を保ち安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て職員が管理し、服薬時はお一人おひとり確認し声掛け提供している。体調変化に留意し主治医の診察に寄与できるよう職員連携して確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	交代で買い物同行して頂いたり、食器拭きや洗濯物たたみ等の家事作業、ラジオ体操やリハビリ体操等で楽しみながら気分転換して頂いている。気候に応じて散歩も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の日帰り旅行の他、お花見やお祭り見学などドライブへ出掛けたり、近隣への散歩や買い物同行等提供し、室内ばかりで退屈されないよう努めている。	八朔祭りや地蔵尊祭り、花見などに出かけている。日帰り旅行では道の駅での買い物も楽しみである。食材の買い物、ウッドデッキでの日光浴、玄関前のプランターの花を眺めるなどして外気に触れている。家族の協力を得て外出するなど、個別の対応も見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には少額づつ管理して頂き、希望があれば買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月には年賀状をご家族宛に書いて頂いている。携帯電話を持っておられる方はご自分で自由に電話されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やカウンターには入居者様に生けて頂いたお花を飾っている。入居者様が快適に過ごせるよう室温や消臭・空気の入れ替え等も配慮している。	リビングには加湿器があり、定期的な換気を行い過ごしやすい環境である。料理する音やおいしいにおいがしてくるなど家庭的な雰囲気の中、利用者がくつろいでいた。雑巾を縫っている人、テレビを見ている人、職員と会話している人など、それぞれに穏やかな時間がながれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームにはソファ(3箇所)と和室コーナーも設置。デッキにも椅子があり、時にはデッキの椅子にて外の空気に当たり気分転換出来るような支援もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や家電・寝具等、以前から慣れ親しんだ物や思い出の品を自由に持ちこまれており、自宅で過ごしているような安心出来る気分になられる環境を提供している。	ベッドはホームの備品である。それ以外の姿見や筆筒など、使い慣れたものを持ち込んでいる。テレビがある部屋でひとり居心地よく過ごす利用者、写真などを飾った部屋、シンプルな部屋など、一人ひとりに合った落ち着ける部屋づくりとなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには認識出来るよう表示を掲げている。又浴室、トイレ、廊下には手すりを設け動線上には障害物等置かないよう安全にも配慮している。		